

(3) ボーリング調査

三瓶小豆原埋没林掘り出し調査地内では埋没状況等の基礎資料を得ることを目的に、ボーリング調査を実施した。ボーリング地点を図4.1.3-1、ボーリング柱状図を図4.1.3-2に示す。なお、平成8年11月に三瓶自然館が松井整司氏の指導のもとに行ったボーリング調査結果（BP4地点）および平成6年11月に松井整司氏が個人で実施したボーリング調査結果（BP5地点）を併せ報告する。

ボーリング調査の結果、本調査地には完新統が最大15m以上の層厚で分布していることが明らかになった。完新統は上部が礫を多含する粗粒砂、下部が細粒砂を主体とする地層である。

A-1幹に隣接して掘削したBP1ボーリングでは、基盤岩直上の風化層中にA-1幹の根材とみられる材が確認されている。このことから、埋没林の生育面が基盤岩直上と推定され、樹幹長が10m以上に達するものが存在することが明らかになった。

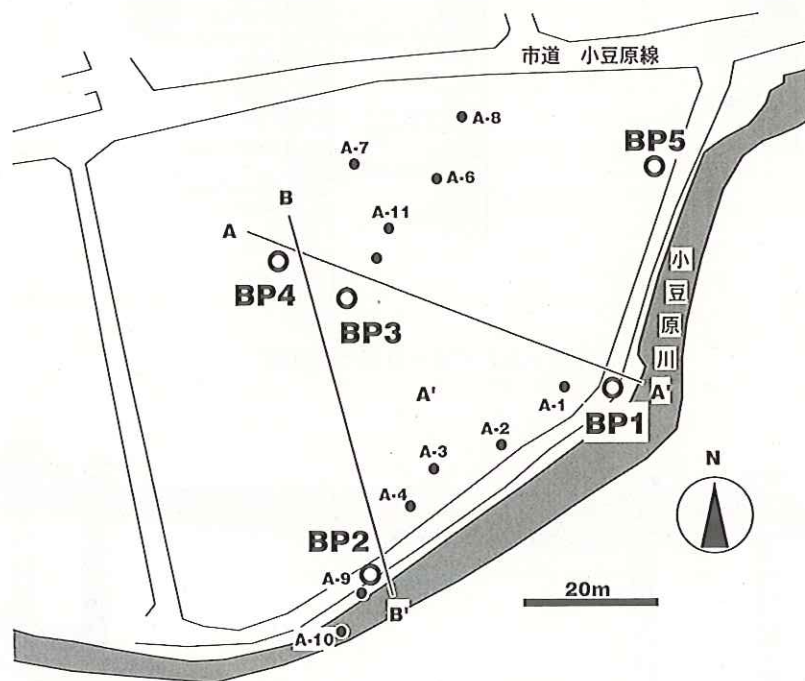


図4.1.3-1 ボーリング位置図

表4.1.3-1 ボーリング一覧

No.	孔口標高 (m)	掘進長 (m)	削孔径 (mm)	調査日	種類	備考
BP1	222.8	15.0	66	平10年11月	オールコアボーリング	
BP2	217.6	6.0	66	平11年2月	貫入試験併用オールコアボーリング	
BP3	220.1	17.0	66	平11年3月	貫入試験併用オールコアボーリング	
BP4	220.6	20.0	66	平8年11月	オールコアボーリング	三瓶自然館が実施。
BP5	221	12.5	66	平6年11月	オールコアボーリング	島根県による調査に先立って松井整司氏が実施。

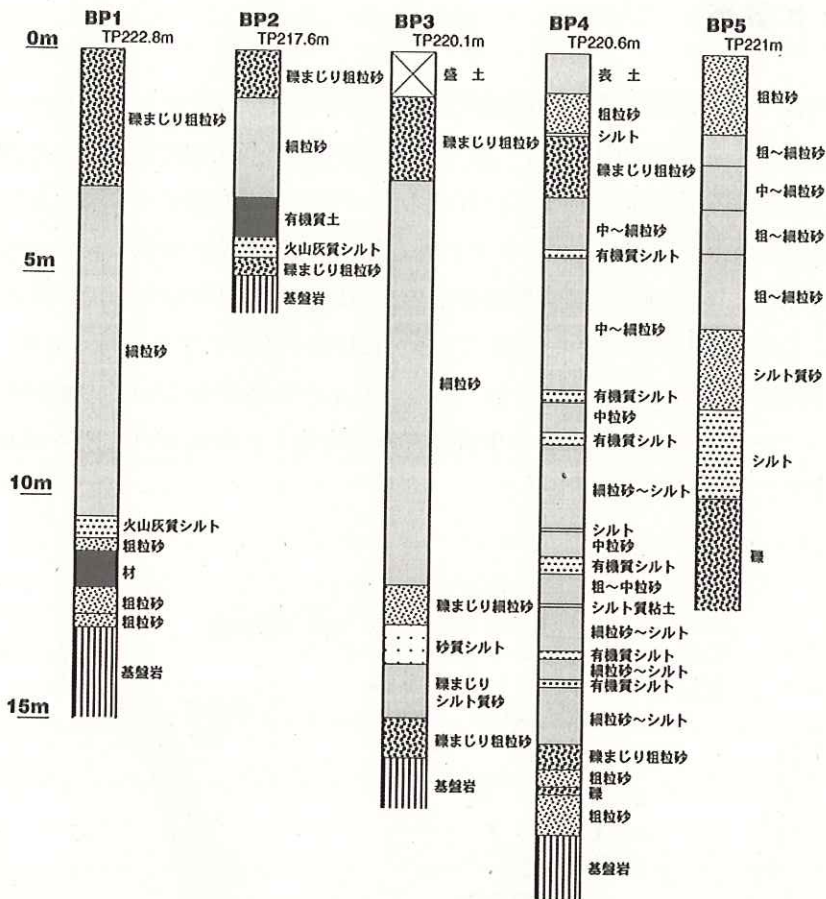


図4.1.3-2 ボーリング柱状図

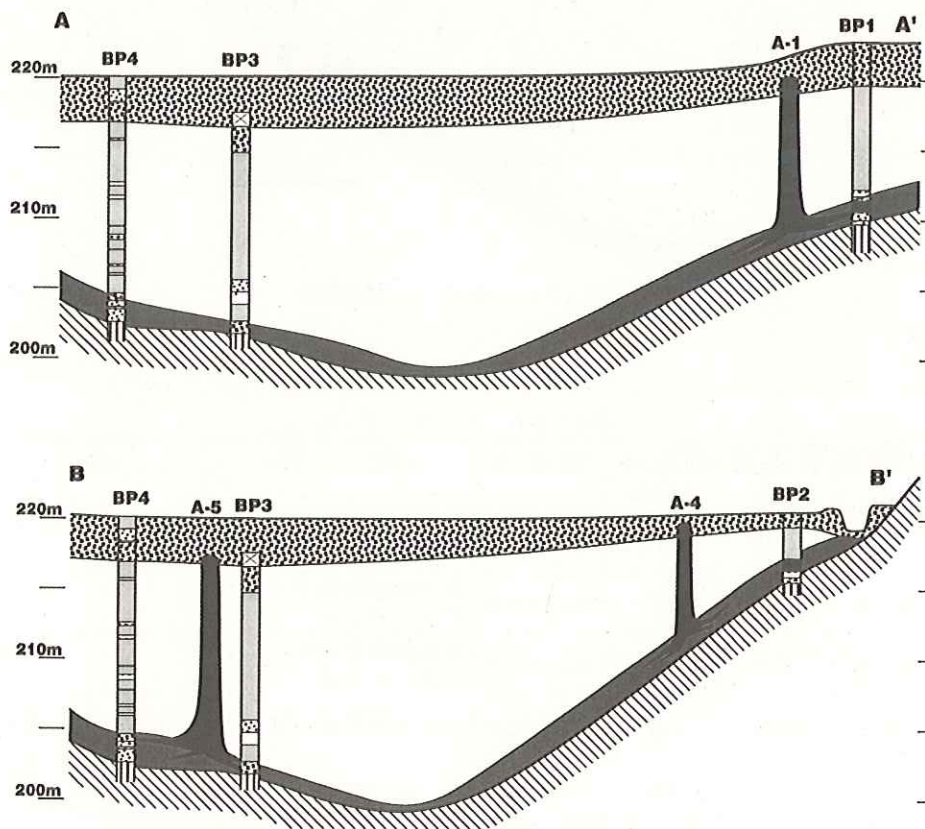


図4.1.3-3 地下地質断面図